



新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。

林檎

手もて撫ずれば
 きゆるきゆると
 笑うなり
 その肌はなめらかに
 しっとりとして
 わが指にからむなり
 陽にかざせば
 ぴかっと光るなり
 さびしくてならぬ日
 きまぐれに一つ買いたれど
 まことにめでたし
 りんご 木の果
 侘びつつおもしろくなりて
 きゆるん きゆるんと
 笑わせていくなり

mana イラストレーター

自然、人、街、音、物、まわりから感じるストーリーを、ココアのように甘く幸せな気持ちになるようにカタチにしています。「COCOA LIFE MAGIC」名義でも展開中。
<http://www.cocoalifemagic-mana.com>

絵について

りんごの「きゆるきゆる」とかわいく笑う音、「ぴかっと」光る輝きをテンポ良く描いてみました。詩の中の「赤くて丸い心躍る果実」を感じてもらえたら嬉しいです。

新美南吉



にいみなんさき
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

解説

「さびしくてならぬ日」に、「きまぐれに」買った一つの林檎が、孤独な作者の心を慰め癒す。詩はごく日常的な言葉によって書かれているが、言葉の一つ一つは新鮮で清々しい。

書き出しの「手もて撫ずれば／きゆるきゆると笑うなり」という表現が生新だ。「きゆるきゆる」という可憐な音の響きと、その音を林檎の笑う音としてとらえ、作家の心に林檎が応えるように表現しているところがいい。詩は、「まことにめでたし」と「木の

果」を愛で、「侘びつつおもしろくなりて／きゆるん きゆるんと／笑わせていくなり」と書き出しの表現に変化をもたせ、余韻を残して終わっている。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を勤める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

おしらせ

南吉生誕100年フィナーレ～夢 つなぐ

【日にち】12/21(土)

【場所】半田市立岩滑小学校(14:00～)、新美南吉記念館(17:00～)

【主催】新美南吉生誕100年記念事業実行委員会、半田市、半田市教育委員会

【問合せ】新美南吉記念館0569-26-4888

南吉生誕100年イヤーを締めくくるとなると、フィナーレイベント。南吉の夢を子どもから大人までみんなで受け継ぐべく、「夢 つなぐ」をテーマに開催。第1部 元NHKアナウンサー山根基世氏の朗読・講演、園児の子ども山車、小中学生による劇・合唱など。第2部 献灯、山根氏の朗読、ハンドベル、合唱、うどんのふるまい、南吉ゆかりの地物産抽選会など。